

# 汎用自律型AIエージェント「Manus 1.6」の最新動向とビジネス・地政学的インパクトに関する包括的調査報告

Gemini 3.1 pro

## 1. 序論：対話型AIから完全自律型エージェントへのパラダイムシフトと市場の現在地

2023.1 pro6年のテクノロジー業界において、人工知能の技術的焦点は「人間の質問に対してテキストを生成する(チャットボット)」段階から、「人間の抽象的な目標を理解し、自律的に計画を立て、各種ツールを駆使して成果物を納品する(自律型エージェント)」段階へと完全に移行した。このパラダイムシフトの最前線に位置し、市場を牽引しているのが、Butterfly Effect Pte Ltdによって開発され、2025年末にMeta Platforms社によって20億ドル以上の評価額で買収された汎用自律型AIエージェント「Manus」である<sup>1</sup>。

初期のManusは、クラウドベースの隔離されたサンドボックス環境内でコードを実行し、ウェブ検索やデータ分析を行う高度な自動化ツールとして市場に登場した。しかし、最新のメジャーアップデートである「Manus 1.6」のリリースに伴い、そのアーキテクチャ、マルチモーダル処理能力、およびローカル環境へのアクセス権限は根本的な進化を遂げた<sup>3</sup>。ユーザーコミュニティにおいて「最近のManusが凄すぎる」と評される背景には、この技術的跳躍がもたらした実務レベルでの圧倒的な生産性向上が存在する<sup>6</sup>。本報告書は、Manus 1.6のコア機能、アーキテクチャの優位性、競合他社(OpenAI OperatorやDevin、Clineなど)との詳細な性能比較、実運用における経済的・技術的課題、そしてMeta社による買収劇が引き起こした米中間の地政学的摩擦について、多角的な視点から徹底的に分析・総括するものである。

## 2. Manus 1.6の基盤アーキテクチャと「Max Agent」の推論能力

Manus 1.6のアップデートは、単なる表層的な機能追加ではなく、AIエージェントの「思考プロセス」と「実行プロセス」を再定義するアーキテクチャレベルの刷新であった。このシステムの根幹を成すのが、単一の巨大な言語モデル(LLM)に全てのタスクを依存するのではなく、推論、デザイン、コーディング、自動化といったタスクの性質に応じて、複数の最適な特化型モデルを動的にオーケストレーションする「マルチモデル・アーキテクチャ」である<sup>6</sup>。

### 2.1. ベースモデルの競争から「ハーネス(オーケストレーション)」の競争へ

2026年初頭の段階で、AI業界における基盤モデルのコーディング能力は一定の限界点(シーリング)に到達しつつある。実際、SWE-bench Verified(ソフトウェアエンジニアリングの実務能力を測る

ベンチマーク)において、AnthropicのClaude 3.7 Sonnetは80.8%、GoogleのGemini 3.1 Proは80.6%、OpenAIのGPT-5.4は80.0%と、主要なフロンティアモデルのスコアは小数点以下の僅差で拮抗している<sup>9</sup>。このデータが示唆するのは、AIエージェントの真の実力差は、もはやベースモデル単体の性能ではなく、モデルをどのように連動させ、外部ツールと統合するかという「アーキテクチャ（ハーネス）の設計」に依存しているという事実である<sup>11</sup>。

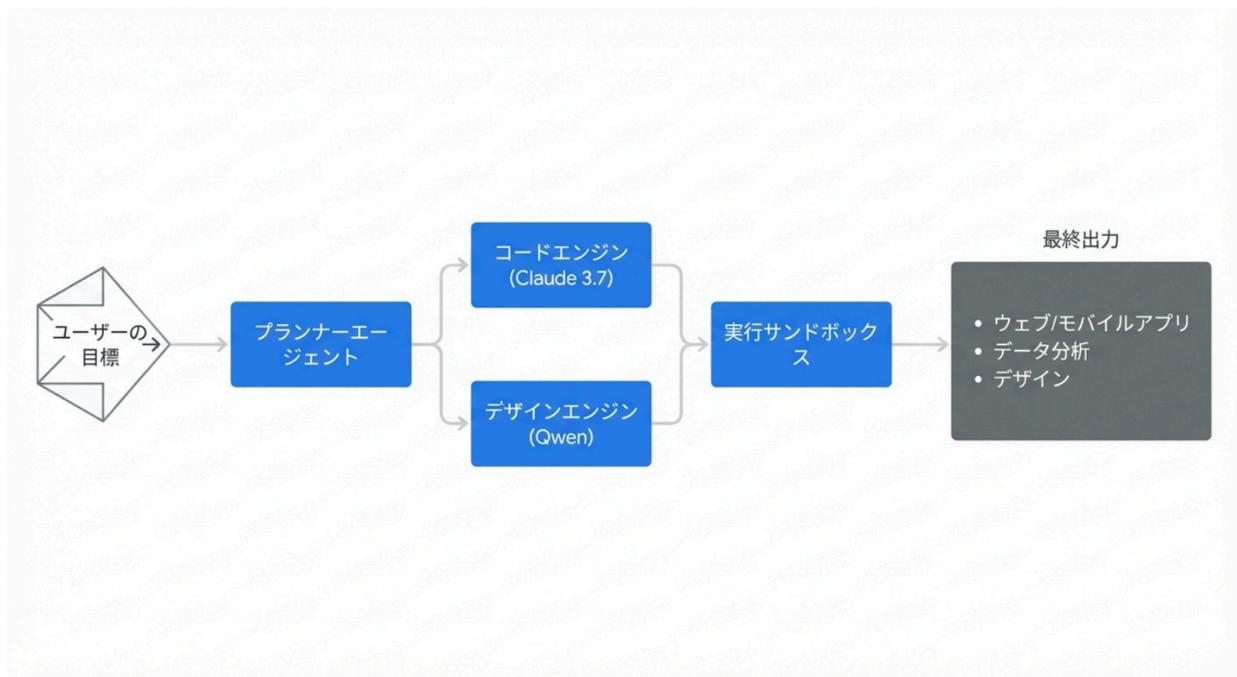
Manusはこの点において際立っている。内部システムとして、高度な論理推論とコーディングにはClaude 3.7 Sonnetを、その他の特化型タスクにはファインチューニングされたQwen（Alibaba製）ベースのモデル群を採用する「Mixture of Models（複数モデルの混合）」アプローチを実装している<sup>7</sup>。汎用モデルに全てを処理させるのではなく、特定タスクに最適化された軽量モデルを組み合わせることで、精度の向上と処理速度の劇的な改善を実現している。

## 2.2. Manus 1.6 Maxによる自律性の飛躍

Manus 1.6のラインナップは、標準的な「Manus 1.6」、軽量で高速な処理に特化した「Manus 1.6 Lite」、そして最も複雑で高度な推論を要求されるタスクに対応する最上位モデル「Manus 1.6 Max」で構成されている<sup>13</sup>。内部のブラインドテストにおいて、Manus 1.6 Maxはユーザーの意図理解とタスク成功率において従来比で19.2%という有意な向上を記録した<sup>6</sup>。

この性能向上の本質は、「マイクロマネジメントからの解放」である。従来のAIエージェントやLLMチャットボットでは、ユーザーが段階的にプロンプトを与え、エラーが発生するたびに人間が介入して軌道修正を行う必要があった。しかし、Manus 1.6 Maxでは、ユーザーが「最終的な目標」を一度提示するだけで、AI自身がタスクを論理的なステップに分解し、競合他社の多次元的な比較マトリクスの作成や、複数ステップにわたるデータ収集・分析を自律的かつ一貫して完遂する<sup>4</sup>。これにより、人間とAIの関係性は「操作者とツール」から「マネージャーと自律型従業員」へと根本的に変化した。

## Manus 1.6におけるマルチモデル・オーケストレーションの構造



Manus 1.6は単一の巨大モデルに依存せず、ユーザーの目標に応じてClaude 3.7やQwenなどの特化型モデルを動的に割り当て、自律的なタスク分解と実行を行う。

### 3. 機能拡張: モバイル開発とマルチモーダル環境の統合

Manus 1.6は、初期バージョンの主力であったウェブアプリケーション構築能力をさらに洗練させると同時に、モバイルプラットフォームおよび視覚デザインの領域へとその機能を大幅に拡張した。

#### 3.1. エンドツーエンドのネイティブモバイルアプリ開発

ウェブアプリケーションの開発に留まらず、Manus 1.6はiOSおよびAndroid向けのネイティブなモバイルアプリケーションのエンドツーエンド開発を公式にサポートするようになった<sup>3</sup>。ユーザーがアプリの概念や必要な機能を自然言語で記述すると、Manusはシステム要件、適切な技術スタック、およびユーザーインターフェース(UI)の設計図である「ブループリント」を自律的に生成する。ユーザーはコードが一行も書かれる前に、このブループリントをプレビューし、要件の修正や微調整を行うことができる<sup>6</sup>。

承認プロセスが完了すると、Manusはバックグラウンドでコーディングを開始し、デプロイ可能なプロトタイプを構築する。このプロセスは、開発者を持たない起業家やマーケターにとって、アイデアから動作するプロトタイプまでの摩擦を極限まで排除するものであり、ソフトウェア開発の民主化をさらに一段階推し進める結果をもたらしている<sup>3</sup>。

## 3.2. Design View: 対話型画像生成の再定義

テキストプロンプトによる一方向的な画像生成の限界を打破するため、Manus 1.6にはインタラクティブな画像生成・編集インターフェースである「Design View」が新たに実装された<sup>4</sup>。従来のAI画像生成ツールでは、出力された画像の細部を修正するためにプロンプトを何度も微調整する「プロンプト・エンジニアリング」の手間が必要であった。

これに対しDesign Viewは、画像内の特定部分に対する局所的な変更、高解像度レンダリングを伴う画像内テキストの直接追加・編集、複数の画像を組み合わせた複雑な合成デザインなどを、ポイント&クリックの直感的な操作で実現する<sup>4</sup>。これにより、プロフェッショナルなデザインソフトウェアが持つ細粒度のコントロール能力と、最新の生成AIモデルの創造性がシームレスに統合され、マーケティング素材やプレゼンテーション用スライドの作成効率が飛躍的に向上した。

## 3.3. Wide Researchとスプレッドシート処理の高度化

データの収集と分析の領域において、Manusの「Wide Research」機能はMaxアーキテクチャの恩恵を強く受けている。この機能は、単一の検索クエリに対して上位数件のリンクを参照するだけでなく、大規模なタスクを数百から数千の並行するサブタスクに自律的に分解し、広範なウェブ空間から検証済みのデータを抽出する<sup>15</sup>。

抽出されたデータは、高度なスプレッドシート処理能力と組み合わせられる。Manusは、複雑な財務モデリング、大量のデータセット分析、およびクリーンなレイアウトを持つ自動化レポートの生成を、数分以内に行うことが可能である<sup>15</sup>。例えば、250人の研究者プロフィールを分析して要約するといった、人間の手作業では膨大な時間を要するタスクを、極めて短時間で完遂する処理能力を誇っている<sup>17</sup>。

# 4. 「My Computer」: クラウドの境界を突破するデスクトップ革命

Manusが他の多くのクラウドベースAIエージェントと一線を画し、「真のゲームチェンジャー」として評価される最大のブレイクスルーが、デスクトップアプリケーションの導入とそれに伴う「My Computer (マイコンピュータ)」機能の実装である<sup>18</sup>。

## 4.1. ローカル実行環境とファイルシステムへの直接アクセス

従来のエージェントシステムは、主にプロバイダーが用意したクラウド上の仮想環境(サンドボックス)内に隔離されており、ユーザー自身のローカルファイルやインストール済みアプリケーションに直接干渉することはセキュリティ上の理由から制限されていた。しかし、2025年にリリースされたデスクトップアプリにより、Manusはユーザーのローカルマシン上で直接稼働する権限を獲得した<sup>19</sup>。

この革新により、Manusはユーザーのローカルディスクをスキャンし、乱雑なフォルダや数千枚の画像ファイルを自律的に整理したり、ローカルエディタでファイルを編集したりすることが可能となった。さらに、ターミナルコマンドを直接実行し、ローカル環境でコードのコンパイルやアプリケーションの起

動を行う権限を持つ<sup>18</sup>。実際のデモンストレーションにおいて、Manusは手動のコーディングを一切行わず、ターミナルコマンドのみを用いてMac環境上で完全に動作する翻訳アプリケーションを約20分で構築・展開するという離れ業を披露している<sup>19</sup>。

## 4.2. ブラウザ・オペレーターと認証の壁の突破

システム操作の自動化において歴史的に最大の障壁となってきたのが「認証(ログイン)」の問題である。これを解決するために導入されたのが「ブラウザ・オペレーター」機能である。この機能は、隔離された仮想ブラウザではなく、ユーザーが日常的に使用しているローカルの実際のブラウザ(ChromeやSafariなど)を直接制御する<sup>19</sup>。

その結果、Manusはユーザーの既存のログインセッションやCookie情報をそのまま利用して、通常はAPIアクセスが制限されている社内システム、Gmail、Slack、Google CalendarなどのSaaSツールにシームレスにアクセスできる。ユーザーが都度認証情報をAIに渡す必要がなくなり、完全にエンドツーエンドでのワークフロー自動化が現実のものとなった<sup>18</sup>。

## 4.3. 分散コンピューティングとセキュリティ・ガードレール

「My Computer」機能は、ユーザーが所有する休眠状態のデスクトップPCや余剰のGPUパワーを、「24時間365日稼働する専属のデジタル従業員」へと変換するポテンシャルを秘めている<sup>19</sup>。外出先からスマートフォンでManusに指示を出し、自宅のPC上で重いデータ処理や大量のファイル操作を完了させておくといった運用が可能である<sup>19</sup>。

一方で、ローカル環境への無制限なアクセスは、データ損失やマルウェア実行といった重大なセキュリティリスクを伴う。この課題に対処するため、Manusは厳格な「Human-in-the-loop(人間の介入)」原則に基づくガードレールを設けている。ローカルデバイス上でのファイル変更やアプリ起動などのアクションを実行する前には、原則としてユーザーによる承認が必須とされている。ただし、ユーザーが特定のワークフローを「信頼済み」として登録した場合には承認プロセスをスキップでき、利便性とシステム制御のバランスを動的に調整できる設計となっている<sup>18</sup>。

# 5. エージェント市場の競合分析: Manus vs. Operator vs. Devin

エージェント型AIの市場は2026年に向けて急速に過熱しており、Manus 1.6はOpenAIの「Operator」や、AIソフトウェアエンジニアとして先行する「Devin」などと直接的に競合している<sup>5</sup>。各プラットフォームはそれぞれ異なる設計思想に基づいており、実際のタスク実行能力において明確な差異が見られる。複数の実地テストとベンチマークから得られたデータを体系化することで、現在の市場勢力図が浮き彫りになる。

以下の表は、主要なAIエージェントの相対的な実用性とパフォーマンスを比較したものである。

エージェント	評価スコア(10段階)	アーキテクチャと主要な特徴	実際のパフォーマンスと限界
<b>Cline</b>	8	人間との緊密な協調を前提とした半自律型アシスタント(Human-in-loop)。	人間のステアリングを伴うことで開発時間を約70%削減。コードベースのリファクタリングやテスト実行において極めて優秀。完全自律ではないためスコアが高い <sup>12</sup> 。
<b>Manus 1.6</b>	7	複数モデルをオーケストレーションする汎用自律型エージェント。ローカル環境へのアクセスと深いリサーチ能力に強みを持つ。	複雑なタスクの分解、並行処理、ファイルの読み書きに優れる。反復作業を回避し、指示変更に即座に適応する。ただし、コストが高く、稀にハルシネーションを起こす <sup>5</sup> 。
<b>Replit Agent</b>	7	フルスタックアプリケーション(バックエンド、データベース、デプロイ)の迅速なプロトタイピングに特化。	プロジェクトの初期構築(スキュアフォールディング)においては非常に高速だが、データベースのドロップなど破壊的なコマンドを誤って実行するリスクが報告されている <sup>7</sup> 。
<b>OpenAI Operator</b>	4	ブラウザベースの操作に限定された自動化エージェント。ChatGPTのインターフェースを通じて動作する。	フォーム入力などの単純作業には機能するが、複雑なプロンプトの誤解が多く、HTML生成テストでもレンダリングに失敗するなど、現状は「デモ版」の域を出ていない <sup>5</sup> 。

Devin AI	4	ソフトウェア開発に特化し、独自のクラウドサンドボックス内でコードの記述とデバッグを行う。	単純なバグ修正や小規模なプルリクエスト作成には機能するが、高度でインタラクティブな開発作業や創造性が求められるタスクでは処理が停滞する傾向がある <sup>7</sup> 。
----------	---	--	---

## 5.1. OpenAI Operatorとの決定的な差異

OpenAIが提供する「Operator」は、主にウェブブラウザ内での要素(ボタン、メニュー、テキストフィールド)とのインタラクションを通じたタスク自動化に焦点を当てている<sup>5</sup>。ユーザーの指示に基づいてオンラインショッピングや予約手続きを代行する機能を持つが、アーキテクチャの制限から、ローカルファイルの操作や高度なプログラミングには対応していない<sup>12</sup>。

実地テストにおいて、「量子コンピューティングに関する多言語のインタラクティブな学習ハブを作成する」というタスクを与えた場合、Manusはリアルタイムで推論プロセスを表示しながら計画を動的に修正し、完全に動作するウェブサイトを構築した。対照的に、Operatorは推論とWeb検索を行った後にHTMLコードを生成したものの、出力されたウェブページは複数回試行しても正常にレンダリングされず、複雑なシステム構築能力においてManusに大きく遅れをとっていることが証明された<sup>5</sup>。また、Operatorは認証や決済など多くのステップで人間による確認を要求するため、完全な非同期実行には不向きである<sup>5</sup>。

## 5.2. Devinとの比較における「汎用性」の優位

Devinは「世界初のAIソフトウェアエンジニア」として登場したが、実地での評価は二極化している。コードの記述や独立した環境でのデバッグには特化しているものの、デザインの創造性やインタラクティブなシミュレーション構築においては、処理が行き詰まるケースが多数報告されている<sup>7</sup>。

Manusは、市場において「汎用的なDevin (General Purpose Devin)」として認識されている<sup>5</sup>。コーディング能力に加えて、UpworkやFiverrなどのフリーランスプラットフォームでのデータ入力、リサーチ、さらにはKaggleのデータサイエンス・コンペティションに参加するなど、純粋なソフトウェア開発の枠を超えたタスク処理能力を実証している<sup>5</sup>。重複タスクの認識と回避、実行中の指示変更に対する即時適応能力において、Manusの推論エンジンは既存のツール群よりも高い「知能」を備えていると評価されている<sup>5</sup>。

## 6. エンタープライズ統合：ナレッジマネジメントとAPIエコシステム

Manus 1.6は個人の生産性を高めるだけでなく、チーム単位でのナレッジ共有や、既存の企業シス

テム (SaaS) とのシームレスな統合を念頭に設計されている。

## 6.1. Project Skillsによる組織の「集合知」の構築

Manus 1.6で新たに導入された最も重要なエンタープライズ機能が「Project Skills (プロジェクト・スキル)」である。これは、特定の業務に最適化された複雑なAIワークフローやプロンプトチェーンをカプセル化し、「スキル」として保存・共有する機能である<sup>19</sup>。

企業内で特定の従業員が、例えば「顧客のフィードバックデータを分析し、感情スコアを抽出し、担当部署別にレポートを分類する」という高度なワークフローを構築した場合、それを「スキル」としてチームのライブラリに登録できる。他のメンバーは、ゼロからプロンプトを構築することなく、ワンクリックでそのスキルを呼び出し、自身のプロジェクトに適用することが可能である<sup>21</sup>。これにより、Manusは個人の作業を代行するにとどまらず、組織内のベストプラクティスを標準化し、システム自体が継続的に賢くなる「集合知 (Collective Brain)」を形成するインフラとして機能する<sup>21</sup>。

また、技術的な観点から、この「スキル」は「MCP (Model Context Protocol)」とは明確に役割が分かれている。MCPが外部データソースへのパイプライン (Where to get it) を提供するのに対し、Agent Skillsは複雑な複数ステップの手順を実行するプレイブック (How to do it) として機能し、両者を組み合わせることで極めて強力な自動化ソリューションが完成する<sup>23</sup>。

## 6.2. 開発者向けSDKエコシステムの拡大

Manusの普及を後押ししているのが、開発者向けのエコシステムの成熟である。2026年には、Laravelなどのフレームワークに統合可能な完全なPHP SDK (v1.1.0) がオープンソースコミュニティ (tigusigalpa等) からリリースされた<sup>13</sup>。このSDKは、タスク管理、ファイルアップロード (PDFや画像)、リアルタイムのWebhook通知、およびManus 1.6、Lite、Maxといった全モデルのルーティングを完全にカバーしている<sup>13</sup>。

SDKの存在は、Manusが単なるエンドユーザー向けツールから、B2B SaaS製品のバックエンドに組み込まれる「インテリジェンス・ミドルウェア」へと進化したことを意味している。企業は自社のアプリケーション内にManusの推論能力を直接埋め込み、カスタマーサポートチャットボットの高度化や、大量のドキュメント解析の自動化を容易に実装できるようになった<sup>24</sup>。

## 6.3. サードパーティデータ統合とSimilarweb連携

企業リサーチにおけるManusの実用性を決定づけているのが、高品質な外部データプロバイダーとのネイティブ統合である。特に、ウェブトラフィック分析の業界標準である「Similarweb」との統合は、マーケターや戦略担当者にとって極めて強力な武器となっている<sup>25</sup>。

ユーザーは事前のセットアップなしに、自然言語で「競合他社AとBの過去3ヶ月のモバイルトラフィックを比較して」と指示するだけで、Manusが自律的にSimilarweb APIを呼び出し、データを取得、集計してレポート化する<sup>25</sup>。このプロセスにおいて、データの抽出から加工、チャート化までを人間が介在せずに完了できる点は革命的である。ただし、この統合機能の利用には、後述する複雑なコスト

計算モデルが適用されるため、経済的な管理体制が求められる。

## 7. 経済モデルのジレンマ: クレジット体系と予測不可能性

Manus AIの収益モデルは、柔軟性とコントロールを提供する一方で、企業ユーザーにとって最大の悩みの種ともなっている。Manusは定額制と従量課金制を組み合わせたハイブリッドな「クレジットシステム」を採用しており、タスクの複雑さや消費されるコンピューティングリソースに応じてクレジットが消費される<sup>26</sup>。

### 7.1. 料金プランの構造

2026年時点におけるManus AIの主な料金体系は以下の通りである<sup>27</sup>。

プラン名	月額料金	初期付与 / 月間クレジット	主な特徴と対象ユーザー
Free	\$0	初回1,000 + 日次300回復	Agent Modeは「Lite」のみ利用可能。単一タスクの同時実行。
Basic	\$19	月間1,900クレジット	個人ユーザー向け。標準的な機能へのアクセス。
Pro (Standard)	\$20	月間4,000クレジット	Manus 1.6 Maxへのアクセス。高度なリサーチ、最大20の同時実行タスクをサポート。
Pro (Extended)	\$200	月間40,000クレジット	大量のリソースを消費するヘビーユーザー向け。
Team	\$39/シート～	共有クレジットプール	最低5シート。SSO導入、データ学習のオプトアウト、チーム分析機能を提供 <sup>27</sup> 。

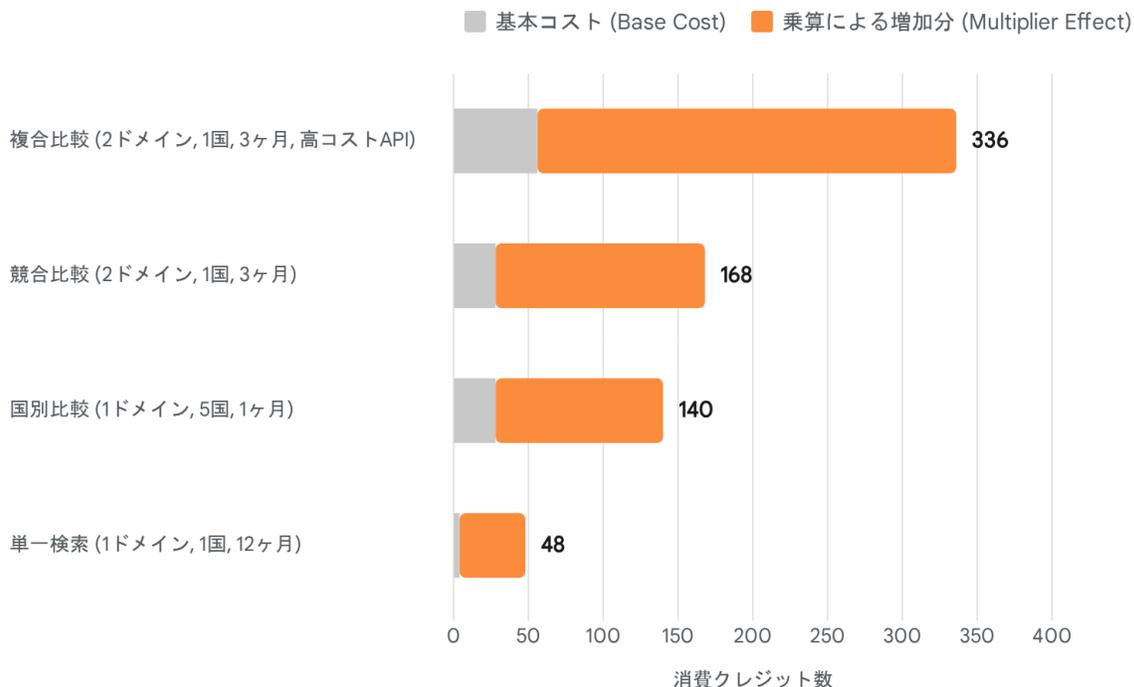
## 7.2. 「トークン・ハングリー」な性質とコストの不透明性

Manusの革新性はその完全自律性にあるが、同時に経済的な不確実性という最大の弱点を抱えている。対話型のチャットボットとは異なり、ユーザーはエージェントに「目標」を与えるだけであり、エージェントが内部でどれだけのステップを踏み、ウェブ検索を何回繰り返し、エラー修正のループを何回回すかを事前に正確に把握・制御することは困難である<sup>29</sup>。

その結果、一見単純に見えるタスクであっても、裏側で膨大な処理が行われ、単一のタスクで1,000以上のクレジットを消費してしまうケースが報告されている<sup>27</sup>。RedditやTrustpilotなどのコミュニティでは、Manusの挙動を「異常にトークンを消費する (insanely token-hungry)」と表現するユーザーが少なくない<sup>30</sup>。

特に、前述したSimilarwebなどのサードパーティAPI連携を利用した場合、コストは指数関数的に跳ね上がる。Similarwebのクレジット消費モデルは、「対象ドメイン数 × データ粒度 × 国数 × 期間(月数) × エンドポイントの基本コスト」という乗算式に基づいて計算される<sup>31</sup>。

## 複雑なタスクにおけるクレジット消費量の変動 (Similarweb連携の例)



クエリの条件（比較するドメイン数や調査対象期間）が増加すると、消費されるクレジット数は指数関数的に増大し、予算超過のリスクが高まる。

Data sources: [Manus Blog](#), [Manus Docs](#)

このような予測不可能な課金体系は、予算管理が厳格なエンタープライズ企業にとって、日々の業務に依存するインフラとして導入する際の大きな障壁となっている。一部のビジネスユーザーは、コストが明確で制御可能な他のプラットフォームへの移行を検討し始めているという指摘も存在する<sup>29</sup>。

## 8. 実運用における摩擦とシステムの限界

最先端のマルチモデル・アーキテクチャを備えながらも、Manus 1.6は未だ発展途上のプロダクトであり、実運用環境において看過できないいくつかの重大な摩擦（フリクション）を引き起こしている。

### 8.1. インフラストラクチャの可用性とサーバー負荷

最も頻繁に報告され、ユーザー体験を著しく損なっている問題がサーバーの可用性である。急激な需要増加に対しバックエンドのインフラ拡張が追いついておらず、ピーク時には「サーバーがビジー

状態です (Server busy)」というエラーメッセージが頻発している<sup>8</sup>。

自律型エージェントの最大の価値提案は「タスクを指示してPCを閉じ、完了通知を待つだけ」という非同期的な処理にある。しかし、サーバーエラーによってタスクが途中でフリーズしたり、Web検索プロセスで長時間のタイムラグが発生したりすることで、結果的にユーザーがシステムの進捗を監視し続けなければならない状況が生じており、自律性のメリットが大きく相殺されている<sup>8</sup>。

## 8.2. 自律性が引き起こす「タスク完了の誤認 (ハルシネーション)」

ノーコードでのウェブサイト構築や複雑なAPI統合などのワークフローにおいて、特有のバグが多数報告されている。その最たるものが「タスク完了の誤認 (False Completion)」である。

ユーザーが特定のシステム変更 (例えば、Auth0によるログイン機能の実装やチャットボットの追加など) を指示すると、Manusはコードを生成し、システムダッシュボード上ではタスクを「Completed (完了)」とマークする。しかし、ユーザーが実際にデプロイされたウェブサイトを確認すると、指定した機能が全く反映されていないという現象である<sup>34</sup>。これは、AIモデルが「要件を満たすコードの記述を完了した」時点でタスク終了と判断してしまい、実際のサーバーへのプッシュ (デプロイメント) や、稼働環境での最終確認テストをスキップしてしまうという、手続き上のハルシネーション (幻覚) に起因する<sup>34</sup>。

一部の熟練ユーザーは、この問題を回避するために「変更履歴 (Changelog) を必ずMarkdown形式で作成し、GitHubへのプッシュと自動デプロイメントのアクションを明示的に実行するよう指示する」といった回避策を講じている<sup>34</sup>。しかし、このような精密な手順の指示は、本来不要であるはずの「マイクロマネジメント」への回帰を意味しており、Manusが標榜する「完全自律型エージェント」という理想にはまだ技術的なギャップが存在することを示している。

## 8.3. 顧客サポートの機能不全とアカウント管理の欠陥

不安定なシステム挙動に輪をかけて深刻なのが、カスタマーサポート体制の脆弱さである。無料プランからProプランへのアップグレードを行ったにもかかわらず、ダッシュボード上のクレジットが「0 / 8000」のまま反映されず、数週間にわたってサービスが利用できない状態が放置されるケースや、解約後の不正な継続課金 (口座からの引き落とし) といった重大なアカウント管理上のトラブルが多数報告されている<sup>30</sup>。

これらの問題に対するサポートの返答には48時間以上を要することが常態化しており、「最悪のカスタマーサポート」としてTrustpilotなどのレビューサイトで1つ星の評価が相次ぐ事態を引き起こしている<sup>30</sup>。高度なAI技術を誇る一方で、それを支える基本的な顧客管理インフラが欠如している点は、急成長スタートアップ特有の歪みと言える。

## 9. Metaのエコシステム統合と広告運用へのインパクト

上述のような課題を抱えつつも、Manusの技術的ポテンシャルを高く評価し、自社の巨大なエコシステムに組み込んだのがMeta Platforms社である。2025年末の買収完了後、Metaは驚異的なスピー

ドでManusの機能を自社プロダクトに統合し始めている。

## 9.1. Meta Ads Managerにおける自律型メディアバイイング

2026年初頭の最も注目すべきアップデートは、Meta Ads Manager内にManus AIが「新しいAIワークパートナー」としてネイティブに統合されたことである<sup>36</sup>。これは単なるUIの変更ではなく、デジタルマーケティングにおけるメディアバイイングのパラダイムを根本から覆す可能性を秘めている。

広告主やメディアバイヤーは、自社のアカウント情報をManusに連携させることで、AIに広告キャンペーンのパフォーマンス監査を完全に委任することができる<sup>37</sup>。Manusは、広告費の消化状況、インプレッション、クリック率(CTR)、顧客獲得単価(CPA)などの膨大なデータをリアルタイムで分析し、キャンペーン別のパフォーマンスを比較検討する。さらに、単なる数値の羅列ではなく、「予算をどのキャンペーンに再配分すべきか」「どのクリエイティブを停止すべきか」といった実行可能なネクストステップ(Actionable Next Steps)を含む包括的なレポートを自律的に生成する<sup>36</sup>。

## 9.2. サードパーティMCPツールの排除とエコシステムの囲い込み

この統合プロセスにおいて、Metaは極めて戦略的な動きを見せている。Manusのネイティブ統合と時を同じくして、Metaは「Pipboard」などのサードパーティ製MCP(Model Context Protocol)ツールを使用してMetaの広告データにアクセスするアカウントに対し、ペナルティの付与やプロフィールのバン(利用停止)措置を強めているという報告がある<sup>37</sup>。

これは、Metaが自社のプラットフォーム内で生成される価値の高い広告運用データを外部のAIシステムに流出させることを防ぎ、買収したManusを唯一の公認自律型エージェントとしてエコシステム内に囲い込む意図があることを強く示唆している。一部の専門家は、現在のManusのレポート機能はまだ表層的な分析に留まっており、古典的な意思決定ツリーに基づく人間のメディアバイヤーの戦略には及ばないと指摘しているが<sup>37</sup>、中長期的にAIアルゴリズムによる自律最適化が人間の運用を凌駕することは確実視されている。

# 10. 国家安全保障と地政学的波紋：米中AI覇権争いの最前線

Manusの急速な台頭とMetaによる巨額買収は、単なるテクノロジー業界内のM&Aという枠を超え、国家間の安全保障や地政学的対立の最前線へと同社を押し上げることとなった。

## 10.1. 20億ドル規模のM&Aの背景と「シンガポール・ウォッシング」

2025年12月末、Meta PlatformsはManusを20億ドルから30億ドル(約3兆円~4.5兆円)と推定される評価額で買収したことを公式に発表した<sup>2</sup>。MetaのCEOであるマーク・ザッカーバーグが進める強力なAI推進戦略の一環であり、単なる特許や技術の獲得ではなく、「即戦力となる汎用エージェントの開発チームと、既に世界中の数百万人のユーザーと企業に利用されている実証済みのサービス基盤」を丸ごと手中に収める狙いがあった<sup>2</sup>。

しかし、この買収には複雑な地政学的背景が存在した。Manusは元々、中国人起業家のXiao Hong (CEO)とYi Yichao(チーフサイエンティスト)らによって2022年に中国・北京で設立されたAIスタート

アップであった。彼らは、米国の厳格な技術輸出制裁を回避し、最先端のAI半導体(GPU)やグローバルな投資資金へアクセスするため、2025年夏に本社機能をシンガポールへと移転させていた<sup>41</sup>。この手法は、中国系企業が国際市場での摩擦を避けるために国籍をロンダリングする、いわゆる「シンガポール・ウォッシング」の典型的なケースとして認識されていた。米国規制当局は、この移転によって中国政府による干渉リスクが軽減されたと判断し、12月時点での買収を承認していた<sup>41</sup>。

## 10.2. 中国当局による介入と「出国禁止措置」の発動

この米巨大テック企業による中国発の有力AIスタートアップの買収に対し、強硬な姿勢を示したのが中国政府である。中国商務省は2026年1月より、この買収が「外国直接投資(FDI)規則」や「技術輸出規制」に違反していないか、また中国国内のユーザーデータがMeta側に共有されるリスクがないかどうかの広範な調査を開始した<sup>1</sup>。Manusはシンガポールに本社を移したものの、依然として北京に姉妹会社(Butterfly Effect Technology)を維持しており、CEOのXiao Hongが法定代表人を務めていることが、中国当局にとって法的な介入の足場(エントリーポイント)となった<sup>43</sup>。

そして2026年3月、事態は劇的なエスカレーションを迎える。北京の国家発展改革委員会(NDRC)での会議に呼び出されたXiao HongとJi Yichaoに対し、中国当局は「出国禁止措置(Exit Ban)」を発令し、彼らが中国国外へ出国することを法的に禁じたのである<sup>38</sup>。両名は中国国内の移動は自由であるが、Metaの本社がある米国や、拠点のシンガポールへ渡航することは不可能となった<sup>38</sup>。

## 10.3. 「完全な自立AIエコシステム」戦略と人材流出への危機感

この異例の出国禁止措置の根底には、中国の国家主席・習近平が第15次5カ年計画の根幹として掲げる「AIエコシステムの完全な自立(Self-reliant AI ecosystem)」戦略に対する強い危機感がある<sup>43</sup>。

中国当局は、国内で育成された極めて有望なAI企業(かつては「第2のDeepSeek」と目されていた)が、制裁回避のために海外へ拠点を移し、最終的に米国の巨大テック企業に巨額で買収されるという「Manusモデル」が、他の中国系テック企業にとっての成功の青写真(ブループリント)として定着することを極度に警戒している<sup>39</sup>。

現在のAI覇権争いにおいて、基盤となる半導体(チップ)レイヤーでは米国が圧倒的な優位に立っている。中国が米国に対抗するためには、限られた計算資源で最大の効率を引き出す「エージェント・アーキテクチャ」の設計能力が生命線となる。Manusが開発したような、推論と実行を効率的に分離・統合する高度なオーケストレーション技術や、それを生み出したトップクラスの頭脳(人材)が米国の陣営(Meta)に完全に吸収されることは、中国の国家戦略において決して容認できない流出なのである<sup>42</sup>。

米国側やMetaは「取引は適用される全ての法律を完全に遵守しており、適切な解決を期待している」との公式見解を示し、法治主義に基づくM&Aの正当性を主張している<sup>38</sup>。しかし、創業者であり技術のコアを握るキーパーソンが中国国内に物理的・政治的に足止めされている状況下において、Metaが目論んだ「即戦力としての完全なチーム統合」には極めて重い暗雲が立ち込めている<sup>44</sup>。



## Manusを巡る企業動向と米中地政学摩擦のタイムライン



米国の制裁回避と資金調達を目的としたシンガポールへの移転は、結果としてMetaによる巨額買収を可能にしたが、中国当局による強硬な人材流出阻止策（出国禁止）を引き起こした。

## 11. 結論: エージェント主導型経済の幕開けと構造的課題

「Manus 1.6」に関する技術的特性、ビジネスエコシステム、およびそれを取り巻く地政学的環境を包括的に分析した結果、我々はAI産業が完全に新しいフェーズに突入したことを確認できる。

第一に、技術的パラダイムの移行は完了し、実行能力 (**Execution**) が価値の源泉となっている。Manus 1.6 Maxが実証したマルチモデル・オーケストレーションと、ローカル環境のファイルシステムやブラウザを直接操作する「My Computer」機能は、AIがもはや人間の思考を補助する単なる「アドバイザー」ではなく、独立してタスクを完遂できる「デジタル労働力」へと進化したことを決定づけた。特に、複雑なマルチステップの論理推論や、ネイティブアプリのブループリント生成において、競合するOpenAI OperatorやDevinを機能面で凌駕している事実は、アーキテクチャ設計の優位性を証明している。

第二に、エンタープライズ統合における最大の障壁は、自律性がもたらす「予測不可能性」である。Project Skillsによる組織知の標準化や、PHP SDKの提供を通じたAPIエコシステムの拡大は、ManusがB2Bインフラとして普及する強力な推進力となる。しかし、内部プロセスのブラックボックス化に伴う「トークン・ハングリー」な性質や指数関数的なクレジット消費モデル、さらには「タスク完了の誤認」といった深刻なハルシネーション問題は、厳格なROI(投資対効果)を求める企業環境において極めて大きな摩擦を生んでいる。システムインフラの安定化と、より予測可能な経済モデルへの移行が急務である。

第三に、AIエージェントは国家安全保障と技術覇権の最も先鋭的な対立点となった。Metaによる巨額買収と、それに続く中国政府による創業者への出国禁止措置という前例のない事態は、自律型AI技術が単なるソフトウェアではなく、国家の競争力を左右する戦略物資であることを如実に示している。優れた汎用言語モデル(LLM)の学習競争から、そのモデルを物理的・デジタルな世界に接続し成果を生み出す「エージェント・アーキテクチャ」の獲得競争へと、米中対立の主戦場は完全にシフトした。

総じて、Manusは「人間の代わりにコンピュータを操作し、結果だけを納品する」という次世代ソフトウェアの確固たるスタンダードを提示した。直面している技術的バグや法的な軋轢は過渡期における成長痛に過ぎず、この完全自律型エージェントの基本設計思想は、今後のデジタル経済の根幹を成すインフラとして不可逆的に浸透していくであろう。ユーザーと企業に求められているのは、この強力だが制御が難しい「自律的知能」をいかにマネジメントし、自らのワークフローに統合していくかという、全く新しいリテラシーの獲得である。

### 引用文献

1. Manus (AI agent) - Wikipedia, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Manus\\_\(AI\\_agent\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Manus_(AI_agent))
2. Meta buys startup Manus in latest move to advance its artificial intelligence efforts - AP News, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://apnews.com/article/meta-manus-purchase-ai-agents-aaf01029923011a403ceeb949cf3db5e>

3. What are the differences between Chat mode and Agent mode ..., 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://help.manus.im/en/articles/11711128-what-are-the-differences-between-chat-mode-and-agent-mode>
4. Introducing Manus 1.6: Max Performance, Mobile Dev, and Design ..., 3月 30, 2026にアクセス、<https://manus.im/blog/manus-max-release>
5. Manus AI vs OpenAI Operator: Is China's 1st AI Agent Better than ..., 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.analyticsvidhya.com/blog/2025/03/manus-ai-vs-openai-operator/>
6. Manus 1.6 Just Changed How AI Agents Work : r/AISEOInsider - Reddit, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/AISEOInsider/comments/1pw5mc8/manus\\_16\\_just\\_changed\\_how\\_ai\\_agents\\_work/](https://www.reddit.com/r/AISEOInsider/comments/1pw5mc8/manus_16_just_changed_how_ai_agents_work/)
7. AI agents: experiences with Manus, Operator and more, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.asad.pw/ai-agents-experiences-with-manus-operator-and-more/>
8. Manus AI Review 2026: Honest Pros, Cons & Is It Worth It? | NxCode, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.nxcode.io/resources/news/manus-ai-review-2026>
9. GPT-5 Codex (high) vs Claude 3.7 Sonnet (Non-reasoning): Model Comparison, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://artificialanalysis.ai/models/comparisons/gpt-5-codex-vs-claude-3-7-sonnet>
10. The Best AI Models So Far in 2026 | Design for Online®, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://designforonline.com/the-best-ai-models-so-far-in-2026/>
11. Best AI for Coding (2026): Every Model Ranked by Real Benchmarks - Morph, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://morphllm.com/best-ai-model-for-coding>
12. Comparing my experience with AI agents like Claude Code, Devin, Manus, Operator, Codex, and more - Reddit, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/ClaudeAI/comments/1l8vw3l/comparing\\_my\\_experience\\_with\\_ai\\_agents\\_like/](https://www.reddit.com/r/ClaudeAI/comments/1l8vw3l/comparing_my_experience_with_ai_agents_like/)
13. Releases · tigusigalpa/manus-ai-php - GitHub, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://github.com/tigusigalpa/manus-ai-php/releases>
14. Manus AI - Apps on Google Play, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://play.google.com/store/apps/details?id=tech.butterfly.app>
15. Manus 1.6 Update = 50% Cheaper, 10× Smarter, Fully Autonomous : r/AISEOInsider, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/AISEOInsider/comments/1prto93/manus\\_16\\_update\\_50\\_cheaper\\_10\\_smarter\\_fully/](https://www.reddit.com/r/AISEOInsider/comments/1prto93/manus_16_update_50_cheaper_10_smarter_fully/)
16. Manus AI - App Store, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://apps.apple.com/es/app/manus-ai/id6740909540?l=en-GB>
17. The Complete Guide to Meta's AI Agent Manus -The Agent that can run thousands of parallel tasks to deliver production-ready work in minutes. Prompts, workflows and pro tips that will automate your tedious tasks. : r/promptingmagic - Reddit, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/promptingmagic/comments/1qruaq7/the\\_complete\\_guide\\_to metas ai agent manus the/](https://www.reddit.com/r/promptingmagic/comments/1qruaq7/the_complete_guide_to metas ai agent manus the/)
18. Meta-Backed Manus Brings AI Agent To Desktop With New App - The Future

- Media, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://thefuturemedia.eu/meta-backed-manus-brings-ai-agent-to-desktop-with-new-app/>
19. NEW Manus AI Computer is INSANE! : r/AISEOInsider - Reddit, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/AISEOInsider/comments/1s35bf4/new\\_manus\\_ai\\_computer\\_is\\_insane/](https://www.reddit.com/r/AISEOInsider/comments/1s35bf4/new_manus_ai_computer_is_insane/)
  20. Devin AI vs. Manus AI | My Little Take on Two Popular Autonomous Agents, 3月 30, 2026にアクセス、<https://www.alpsencer.com/blog/2025/manus-vs-devin/>
  21. Introducing Project Skills: Turn Your Team's Expertise into a Reusable Asset - Manus, 3月 30, 2026にアクセス、<https://manus.im/blog/manus-project-skills>
  22. New Manus Skills Level Up Your AI Agents (INSTANTLY) - YouTube, 3月 30, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=7ASCWheuTtc>
  23. Build custom AI workflows with Manus Agent Skills | AI automation, 3月 30, 2026にアクセス、<https://manus.im/features/agent-skills>
  24. GitHub - tigusigalpa/manus-ai-php: Complete PHP SDK for Manus AI API integration. Create AI-powered tasks, manage files, handle webhooks with real-time notifications. Full Laravel support with Facade, Service Provider & Artisan commands. Type-safe interfaces, comprehensive tests & examples included. Easy integration for PHP 8.2+ & Laravel 8-12, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://github.com/tigusigalpa/manus-ai-php>
  25. Similarweb in Manus: Analyze Any Website's Traffic, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://manus.im/integrations/similarweb-manus>
  26. Plans and Pricing - Manus Documentation, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://manus.im/docs/introduction/plans>
  27. Manus AI Pricing 2026: Plans, Credits & Real Costs | Get AI Perks, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.getaiperks.com/az/articles/manus-ai-pricing>
  28. What is the current membership pricing for Manus?, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>
  29. Manus AI's REAL Costs & Alternatives - YouTube, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.youtube.com/watch?v=X7am3g7Zyj0>
  30. Read Customer Service Reviews of manus.im | 2 of 5 - Trustpilot, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.trustpilot.com/review/manus.im?page=2>
  31. Manus Partners with Similarweb for Digital Marketing Expertise, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://manus.im/blog/similarweb-manus>
  32. Similarweb - Manus API, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://open.manus.ai/docs/data-integrations/similarweb>
  33. Manus AI Beta Review: Overhyped and Underperforming — Server Issues, Bugs, and Limitations | by Kaushik Holla | AI ML and Beyond | Medium, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://medium.com/ai-ml-and-beyond/manus-ai-beta-review-overhyped-and-underperforming-server-issues-bugs-and-limitations-7399883b49dc>
  34. Manus No-Code Platform Glitch – Issues with Task Completion and Functionality - Reddit, 3月 30, 2026にアクセス、

- [https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1milk2a/manus\\_nocode\\_platform\\_glitch\\_issues\\_with\\_task/](https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1milk2a/manus_nocode_platform_glitch_issues_with_task/)
35. Issue Resolved : r/ManusOfficial - Reddit, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1rv25y6/issue\\_resolved/](https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/1rv25y6/issue_resolved/)
  36. Meta Integrates Manus AI In Ads Manager 02/17/2026 - MediaPost, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.mediapost.com/publications/article/412845/meta-integrates-manus-ai-in-ads-manager.html>
  37. New Meta Ads Update: Manus AI and What It Actually Means For You! - YouTube, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.youtube.com/watch?v=tkyoW56BRfk>
  38. China bars Manus co-founders from leaving country amid Meta deal review, FT reports, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1s35jec/china\\_bars\\_manus\\_cofounders\\_from\\_leaving\\_country/](https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1s35jec/china_bars_manus_cofounders_from_leaving_country/)
  39. Chinese Authorities Block Meta's Manus Acquisition, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.chosun.com/english/world-en/2026/03/28/CICV4SKIH5HW3OGIPP7SA4IGJU/>
  40. Manus Joins Meta for Next Era of Innovation, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://manus.im/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>
  41. Chinese Regulators Block Manus AI Co-Founders from Exiting Country During Meta Deal Scrutiny, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://mlq.ai/news/chinese-regulators-block-manus-ai-co-founders-from-exiting-country-during-meta-deal-scrutiny/>
  42. China bars executives at Meta-owned AI company from leaving country, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.washingtonpost.com/national-security/2026/03/25/meta-manus-china-executives-banned/>
  43. China Reviews Meta's \$2 Billion Manus Deal as Founders Barred From Leaving Country, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.youtube.com/watch?v=Tds9Opny\\_IY](https://www.youtube.com/watch?v=Tds9Opny_IY)
  44. China's not thrilled its AI experts want to leave the country, 3月 30, 2026にアクセス、  
[https://www.theregister.com/2026/03/27/china\\_ai\\_regulation/](https://www.theregister.com/2026/03/27/china_ai_regulation/)
  45. To win the AI race, cooperation trumps confrontation, 3月 30, 2026にアクセス、  
<https://www.washingtonpost.com/opinions/2026/03/29/ai-anthropic-tech-cast-manus/>